

第五回編集委員会記事

五月一八日(土) 午前一〇時半より正午まで増書房の一室を借りて村研年報第四集のための編集委員会がおこなわれ、小池・福武・安原・米地・柿崎・中野各委員の出席のもとに次のように目次もきまり、原稿も増書房編集部へ手渡しおわたった。(これで、一〇月一三日からの村研大会に先立って、九月上旬に刊行され大会前に各会員に入手していただけるという予定となつたので、八月下旬ないし九月上旬には、大会以前に購入する方法についてのお知らせを差上げることができると存じます。)

予告 『村落社会研究 第四集』

目次

大正期前後にわたる漁村社会の構造変化とその推進力	中野 卓
——北大吞村ブリ網再論——	
利根川下流域農村の変容と「上層農」の存在形態	安原 茂
——茨城県稲敷郡東村の事例——	
水稲集団栽培と「部落」	細谷 昂
——山形県庄内地方の一事例——	
戦後西ドイツの農民層分解と「村落更新」	高山 隆三
ブラジルにおける日系村落社会の構造とその展開過程	藤村 ジャン
——日系農民の生活を中心にして——	シラン

問題提起

幕末における百姓一揆と商品流通

——南部藩領閉伊郡を中心に——

守屋 嘉美

研究動向

法学における研究動向 (宮崎俊行・永山栄子)

史学・経済史学における研究動向 (岩本由輝)

経済学における研究動向 (井上完二)

民族学における研究動向 (村武精一)

社会学における研究動向 (中田 実)

以上